平成 28 年度事業 事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

=	事務事業名	福祉医療事業		所属部	市民環境部	所属課 市民生活課		
総	政策名	〈Ⅲ〉支えあい健やか	に暮らせるまち≪保健・医療・福祉≫	>	所属G	生活グループ	課長名 奥井 健次	
合	施策名	〈20〉地域医療の充実			担当者名	安藤 歩	電話番号 0854-40-1031	
計	目対由民		意 安心して医療機関を利用できる。		15 3 6 6	X mx · y	(内線) 2123	
画	的 象 "'' 4		図というとは、成例を作がっている。		予算科目	会計 款 大事業 大	* 20 711 全域 里 辛	
体	基本事業名 (061)医療行為を受ける機会の保障				J' #111 C	0 1 1 5 0 1 業	名	
糸	目 対 市民		意 図 医療行為を受けることができる。			項	事 福祉医療事業	

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間 単年度のみ

☑ 単年度繰返

(16年度~)

□ 期間限定複数年度

(年度~年度)

② 事業内容

(期間限定複数年度事業は全体像を記述)

福祉医療費助成対象者[重度心身障がい 者及びひとり親家庭]に対して、医療費の自 己負担分を助成(自己負担限度額あり)。

(2)事務事業の手段・指標

① 主な活動

28年度実績(28年度に行った主な活動)

受給者に対する医療費の助成 ①1カ月・1医療機関あたりの自己負担限度額

| ①1カ月・1医療機関あたりの自己負担限度8 |一般: 入院/20,000円・外来/6,000円

低所得: 入院/2,000円・外来/1,000円

手薬局等は自己負担なし

段②対象者

重度障がい者(身体障害者手帳1・2級、療育手帳 A、精神保健福祉手帳1級)

重複障がい者(身体障害者手帳3・4級、療育手帳 B、精神保健福祉手帳2級のうち、二点所持)

ひとり親家庭(所得税非課税)

福祉医療費助成対象者「重度心身障がい者及びひとり親家庭」に対して、医療費の自己負担分を助成(自己負担限度額あり)

29年度計画(29年度に計画する主な活動)

	②活動指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
ア	助成件数(現物給付)	件	20,349	22,710	23,089	23,089
イ	助成件数(償還払)	件	541	538	543	543
ゥ						
I						

(3)事務事業の目的・指標

(り 事物事業の日町・相保							
	① 対象(誰、何を対象にしているのか)		③ 対象指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
	次の条件のいずれかに該当する者(所得 要件あり)	ア	重度心身障がい者 (4/1現在)	人	1,123	1,107	1,087	1,087
	会性のり) ①重度心身障がい者 ②ひとり親家庭	イ	ひとり親家庭 (4/1現在)	人	407	397	398	398
目	0.0000000000000000000000000000000000000	ウ						
的	② 意図(対象がどのような状態になるのか) 医療費の適正な給付及び医療費助成により、医療を受けやすくすることによって、対象者の早期治療・健康増進を図る。		④ 成果指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
		ア	助成件数	件	20,890	23,248	23,632	23,632
		イ	助成額	千円	74,815	100,370	94,317	94,317

(4)事務事業のコスト

(1) 7 10 7 10 - 11							
① 事業費の内訳(28年度決算)		② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)
事業費 114,047千円		国庫支出金	千円				
内訳 扶助費 112,112千円		財 県支出金	千円	38,114	50,967	47,953	47,953
審査支払手数料 1,590千円		^假 内 地方債	千円				
事務費 345千円	書	これの出	千円	21,929	20,386	18,019	18,019
	Ą	一般財源	千円	38,820	51,267	48,075	48,075
県補助 5/10以内		事業費計(A)	千円	98,863	122,620	114,047	114,047
(「扶助費-高額療養費」および「審査支払手数	人	正規職員従事人数	人	6	6	6	
料」)	件	延べ業務時間	時間	1,994	1,994	1,994	
	費	人件費計(B)	千円	7,753	7,805	7,910	
	7	タルコスト(Δ)+(R)	千田	106 616	130 425	121 957	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)

② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革 改善をしているか?)

③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して 市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や 要望が寄せられているか?)

平成17年10月、県による制度改正がなされ、本人負担額を定額500円から定率1割(所得の状況等に応じて限度額あり)へと変更した。また、平成26年10月、再び制度改正により、対象者の拡大と本人負担額の減額を実施した。

昭和48年4月、島根県は障がい者を対象とした「福祉医療助成事業補助金交付要綱」を制定した。昭和54年には母子世帯、平成17年には父子世帯が加えられた。また、平成26年10月には、自己負担額の減額がされ、重度精神障がい者も対象となった。

特になし

雲南市(H27年2月改正版)ver.1.3

2	事後評価	(SEE)
---	------	-------

① 文業体系との整合性 この単独単の目的は中の登録体系にはびったの。 業団することが経びついているの? 月底し余地がある ダ 村がついている ・	2	尹1	1友 6	泮伽【SEE】					
② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか?報金を投入して達成する目的か? □ 見直し余地がある	ı	1	政:	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
図画し余地がある マ 当である ・	目	2	小		- 17			税会な投 ス ↓ <i>て</i> 達成する日め	16) 2
世代 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか?産園を限定・拡充する必要はないか? □ 見直し余地がある	的	6							
□ 見直し余地がある □ 適切である □ 成果の向上会地がある □ 成果を向上させる余地はあるか? 成果を向上させるため度を担いから見ぬいやり方ははないか? 何が原因で成果向上が照待できないのか? □ 同上余地がある □ 同上余地がない □ 関連性の多い長寿障がい福祉課及び子ども家庭支援課との連携・連絡体制を良好 □ 保みていく必要がある。 □ 原止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止た場合の影響の有無とその内容は? 原止すると医療費の支払いが困難になり、経済面・精神面でも不安定となる者がある を招くことも考えられる。 □ 数段事業との銃魔合・連携ができる □ 対 他に手段がある □ 糸も場合 □ 保体的な手段 □ 対 原文 が 競合・連携ができない □ 他に手段がない □ 世に手段がない □ 地に手段がない □ 現山 広 安定になりかけない・者に、医療費がかかることで受診控えが起こり、病気・降かいの悪化を招くことも考えられる。 □ 別域余地がある □ 別域余地がある □ 現はでも扱い限の人員で事業を行っている。対象者の拡大や誤受診等による修正 図 以状でも最小限の人員で事業を行っている。対象者の拡大や誤受診等による修正 □ 別域余地がある □ 別域余地がある □ 別域でも扱い取の人員で事業を行っている。対象者の拡大や誤受診等による修正 □ 別域余地がある □ 別域でをないか? 世間 □ 見直し余地あり □ 見直と余地あり □ 見直し余地あり □ 見直と余地あり □ 見道と余地あり □ 見道と余地あり □ 見道と永地あり □ 見道と余地あり □ 見述を持ていか。 ○ 受益機会・表に表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表がまませいか。 ○ 受益機会・表に表が表が表が表が表が表がまませいか。 ○ 受益機会・通過がでは、 ○ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	妥当			光直し示地が初	0	- Co	<i></i>		
② 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか? 何が順因で成果向上が期待できないのか? 関連性の多い長寿障がい福祉課及び子ども家庭支援課との連携・連絡体制を良好に保っていく必要がある。	性	_							
□ 日上余地がある □ 向上余地がある □ 向上余地がある □ 向上余地がない □ 回				見直し余地がある	る 区 道	切では	ある	* 余地かある	0場合 🛶
□ 自		4	成	果の向上余地の	 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	也はある			
B 日本									バ子ども家庭支援課との連携·連絡体制を良好
日				向工赤地がない		理由	に体っていた	えどのの。	
日 有	ļ	_	_		ADD				
□ 日本		(5)	廃.		の影響 この事	務事業を			
図	в								
性 (6) 類似事業との航廃合・連携の可能性 目的連底には、この事務事業以内手段(類似事業はないか?ある場合・その類似事業との航廃合・連携ができるか?			~	影響有		理由			っことで受診控えが起こり、病気・障がいの悪化
② 押事業との構施合・連携がつきた。	効						を描くことも考え	.51600	
対線係合・連携ができない で表しまします。 で表しまである で表しまである で表しまである である ではまました。 である ではまました。 である ではまました。 である ではままました。 である ではままままままままままままままままままままままままままままままままままま	忹	6	類	似事業との統廃合	・連携の可能性	目的道	産成には、この事務事業以	トの手段(類似事業)はないか?	ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか?
無廃合・連携ができない 理由 重度心身障がい者については「長寿障がい福祉課」、ひとり親については「子ども変				他に手段がある	* ある場合 📥	(具体的	的な手段 重度	心身障がい者について	
□ 他に手段がない □ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) □ 削減余地がある □ 削減余地がない □ 削減余地がない □ 削減余地がない □ 削減余地がない □ 削減余地がある □ 削減余地がない □ 関北でも最小限の人員で事業を行っている。対象者の拡大や誤受診等による修正など実質業務は増大している。 □ 見直し余地がある □ 収平・公正である □ 見直し余地がある □ 公平・公正である □ 別・次評価者としての評価結果 □ 1 次評価者としての評価結果 □ 1 次評価者としての評価結果 □ 1 1次評価者としての評価結果 □ 2 1次評価結果の総括(根拠と理由) □ 日直し余地あり				No.		や類似			74 18 1 - 11 - 11 - 12 1
□ 他に手段がない □ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) □ 削減余地がある □ 削減余地がない □ 削減余地がない □ 削減余地がない □ 削減余地がある □ 削減余地がない □ 同直し余地がある □ 関連由 回数当性 □ 適切 □ 見直し余地あり 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日					連携かできない				草がい福祉課」、ひとり親については「子ども家
⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)			П	他に手段がない		理由	庭义拨妹]207	励力・建携が里安	
□ 削減余地がある □ 削減余地がない □ 押由 □ 開減余地がない □ 押由 □ 原止または削減すると医療費の支払いが困難になり、受給者の経済面・精神面共に不安定になりかねない。また、医療費がかかることで受診控えが起こり、病気・障がいの悪化を招くことも考えられる。 □ ② 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか? 正職員以外や外部委託ができないか? 現状でも最小限の人員で事業を行っている。対象者の拡大や誤受診等による修正など実質業務は増大している。 □ 別減余地がない □ 別域余地がない □ 別域・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か? 高額な医療を受けることの多い障がい者の生活維持、またひとり親家庭への生活負担の軽減という制度の趣旨から考えると適当。 □ 1 次評価者としての評価結果 □ 公平・公正である □ 別はでも最い限の人員で事業を行っている。対象者の拡大や誤受診等による修正など実質業務は増大している。 □ 別域・関連由 国際がい者の生活維持、またひとり親家庭への生活負担の軽減という制度の趣旨から考えると適当。 □ 1 次評価者としての評価結果 □ 公平・公正である □ 別はでも最いの表替に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か? 高額な医療を受けることの多い障がい者の生活維持、またひとり親家庭への生活負担の軽減という制度の趣旨から考えると適当。 □ 1 次評価結果の総括(根拠と理由) □ 1 1次評価者としての評価結果 □ 2 1次評価結果の総括(根拠と理由) □ 2 1次評価結果の総括(根拠と理由) □ 3 2 1次評価結果の総括(根拠と理由) □ 1 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2									
□ 対 削減余地がない 理由 に不安定になりかねない。また、医療費がかかることで受診控えが起こり、病気・障かいの悪化を招くことも考えられる。 □ 割減余地がある					成果を下げずに事	業費を			
□									
数	С		٧	門が水池がない		理由			しょう かんかんしょう 大砂 生んが 起こり、 内 女 中が
理由 現状でも最小限の人員で事業を行っている。対象者の拡大や誤受診等による修正など実質業務は増大している。 □ 別 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か? 高額な医療を受けることの多い障がい者の生活維持、またひとり親家庭への生活 負担の軽減という制度の趣旨から考えると適当。 □ 1 次評価者としての評価結果	効								
図 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?					間)の削減余地	成果	を下げずにやり方のエ	ドで延べ業務時間を削減でき	ないか? 正職員以外や外部委託ができないか?
② 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?	性								ている。対象者の拡大や誤受診等による修正
□ 見直し余地がある □ 公平・公正である □ 2 1次評価者としての評価結果 □ 3 1次評価者としての評価結果 □ 4 目的妥当性 □ 6 周切 □ 8 月直し余地あり □ 8 月効性 □ 6 の 8 日の発滅という制度の趣旨から考えると適当。 □ 7 1次評価者としての評価結果 □ 6 日の妥当性 □ 7 1 日直し余地あり □ 8 日の妥当性 □ 9 日直し余地あり ○ 9 日直し余地あり			~	削減宗地かない		理由	など美負耒務は	、増入している。	
□ 見直し余地がある □ 公平・公正である □ 2 1次評価者としての評価結果 □ 3 1次評価者としての評価結果 □ 4 目的妥当性 □ 6 周切 □ 8 月直し余地あり □ 8 月効性 □ 6 の 8 日の発滅という制度の趣旨から考えると適当。 □ 7 1次評価者としての評価結果 □ 6 日の妥当性 □ 7 1 日直し余地あり □ 8 日の妥当性 □ 9 日直し余地あり ○ 9 日直し余地あり									
□ 見直し余地がある □ 公平・公正である □ 理由	П	9	受			事業内			
平性 理由 負担の軽減という制度の趣言から考えると過当。 理由 負担の軽減という制度の趣言から考えると過当。 1 1次評価者としての評価結果 ② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 福祉医療は島根県の制度であり、平成26年10月に制度改正を実施(①自己負担限度額引き下げ ②対象者の拡大)した。 の B 有効性 適切 ▼ 見直し余地あり 総 C 効率性 図 適切 「 見直し余地あり」					-				
① 1次評価者としての評価結果	平		~	公平・公止である)	理由	負担の軽減とい	つ制度の趣旨から考え	ると適当。
評	性								
評価 A 目的妥当性 「図 適切 「 見直し余地あり は 実施(①自己負担限度額引き下げ ②対象者の拡大)した。 まん で 対象性 「 適切 「 見直し余地あり は		1	12	欠評価者としての記	平価結果			② 1次評価結果の	総括(根拠と理由)
価 A 目的安当性	ľ							福祉医療は島根県	の制度であり、平成26年10月に制度改正を
の B 有効性								実施(①自己負担限	度額引き下げ ②対象者の拡大)した。
	の								
D 公平性 ☑ 適切 □ 見直し余地あり □ □ □ □ □ □ □ □ □									
	括		D	公平性	☑ 適切	□見	直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】 ① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果
廃止	→ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
	廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向 上しない、もしくはコスト維持で成果低下で は改革・改善とはならない。